

価が話題にのぼった。とくに印象深かった問題は、現在進行しているシーボーム報告にもとづく改革を外在的に批判するのではなく、この長所を伸ばし、欠点を克服するという立場で話したいという前提で、いろいろお話をいただいたが、とくに要員の訓練・確保という点を強調されていた。この外日本の社会福祉の現状についての質問があり、例の福祉センター構想、社会福祉士試案などをお話したところ、とくに専門職問題について、現任訓練のもつ意義を指摘していただいたりした。

— . — . —

駆け足のヨーロッパ旅行で、それにこの間20日以上も風邪で苦しむという状態で、どれだけ成果があったのかどうかは分らない。しかし帰国してふり返ってみると、いろいろ書物その他で言葉として知っていたことも、その言葉のもつインプリケーションとか、あるいは具体的なイメージをもつことができたことも少なくない。それと社会福祉が成り立展開する背景なり、文化的社会的状況などをかき間みることができたのも、私にとっては得がたい経験の1つであった。

この他健康と時間の許すかぎり、本屋を歩き廻り、若干の資料類を求めたのも今回の旅行の成果の1つであったかも知れない。これらの資料は未だ到着していないが、折をみてこれらの資料にもとづくヨーロッパの老人問題なり、社会福祉についての情報を提供できればと思っている。また今回は時差ボケの状態のままに日誌風に表面的な感想をのべるにとどまったが、珍談、奇談、失敗談のたぐいはすべて割愛させていただいた。



### 社会保障のこぼれ話

#### 基本年金の引上げ

(スウェーデン)

スウェーデンの基本的年金は、基本額の90%で、消費者物価指数の変化に対応させて基本額を修正し、基本額は自動的に修正されることになっている。

基本額が前回修正されたのは1971年12月で、その修正により基本額は7,100クローネになった。その修正のときの消費者物価指数は258,58で、この1.03倍つまり266.34を超えたとき、基本額は修正されることになっていた。1972年5月の指数はこれを超えたので、7月に基本額は7,300クローネとなった。

資料：スウェーデンからの連絡による。

(平石長久 社会保障研究所)